

八思巴字官印集積

—『隋唐以来官印集存』の南陽等處毛胡蘆義兵百戸印—

吉池孝一

—

羅振玉『隋唐以来官印集存』民国五年(1916年)の三十一葉ウラ右に元代パスパ文字官印の背刻部分の拓本と印文の印影が収められている(図参照)。当該書、巻頭の「目録」の記述によると、背刻には「□陽等處□□□義兵百戸印」「中書禮部造至正□年九月日」とあるという。背刻の拓本によるかぎり読めるのは「□陽□□□□□□□百戸印」「中書禮部□至正□年□月日」という程度であろう。印影は縦6cm×横6.1cm。なお、三十二葉オモテ右上には、別印で同一内容の印影が収められており、照那斯圖(1977)及び照那斯圖・薛磊(2011)は後者の印影を掲載する。もっとも、『集存』所収の後者の印影には字形に不審な点がある。印影を模倣した模写であるか、あるいは贋作の印影ではないかと私は疑っている。

さて、印文は、左行より縦に読み、行は右に向かって進む。パスパ文字の篆書体で、下のようにあり、照那斯圖(1977)の印9及び照那斯圖・薛磊(2011)の§505は「南陽等處毛胡蘆義兵百戸印」と読む。本稿もそれに従う。

- 1 行目 : n(a)m【南】 - y(a)ŋ【陽】 - dhin【等】
- 2 行目 : č'eu【處】 - m(a)v【毛】 - γu【胡】
- 3 行目 : lu【蘆】 - ŋi【義】 - bin【兵】
- 4 行目 : b(a)y【百】 γu【戸】 - yin【印】¹

二

漢語の音韻を表す喩母と影母の区別であるが、『蒙古字韻』は喩母W y1と影母W y2として字形の上で区別する。『書史会要』所収のパスパ文字の字母表でも字形は崩れているが

¹ 下に示したパスパ文字のローマ字への翻字は吉池(2005)に基づき、吉池孝一(2009)などにより修正したものである。ローマ字の右に付した見溪群疑などの漢字は漢語音韻学の伝統的な字母。【】内の f1, f2, š1, š2 などの区別は漢語に特有な区別。数字 1 を付した方は旧有声音に相当する。『蒙古字韻』以外の資料において、両者が区別されることは希である。そこで、区別が明瞭でない場合は、数字を付さず f、š などと記す。ここに挙げたパスパ文字は碑文及び『蒙古字韻』に拠る典型的な楷書体。印章や貨幣にはパスパ文字の篆書体が用いられる。篆書体は楷書体を角ばらせ筆画を複雑にしたものである。筆画は資料ごとに変化に富んでおり規範的な字形と言えるものはない。照那斯圖(1980)には篆書体の一覧表があり参考となる。

〈子音〉 𑖀 g 見 𑖁 k' 溪 𑖂 k 群 𑖃 ŋ 疑 𑖄 d 端 𑖅 t' 透 𑖆 t 定 𑖇 n 泥 𑖈 l 来 𑖉 b 幫 𑖊 p' 滂 𑖋 p 並 𑖌 m 明 𑖍 f [𑖎 f1 奉 𑖏 f2 非敷。f1, f2 の区別が明瞭でない場合は f とする。1 は旧有声音、2 は旧無声音。以下数字を用いるものは同様]、𑖐 v 微 E j 照知 𑖑 č' 穿徹 𑖒 č 床澄 𑖓 ŋ' 娘 𑖔 š [𑖕 š1 禪 𑖖 š2 審] 𑖗 ž 日 𑖘 j 精 𑖙 c' 清 𑖚 c 從 𑖛 s 心 𑖜 z 邪 𑖝 影 𑖞 h [𑖟 h1 匣 𑖠 h2 曉] 𑖡 γ 匣(合) W y [W y1 喩 W y2 影(幺)] 𑖢' 喩(魚) 𑖣 r 𑖤 q 𑖥 h (visarga)

〈半母音〉 𑖦 ü 𑖧 i
〈母音〉 𑖨 u 𑖩 i 𑖪 e 𑖫 e 𑖬 o (母音 a の専用字はなく、音節初頭の子音のみで表記される。ローマ字に翻字する場合、母音 a は()を付して補写する。例えば、肝 gn→g(a)n)

両者を区別する。しかしながら、上記以外の資料で両者を区別する確実な資料を知らない²。さて、この印文には喻母字と影母字が含まれる。1行目 y(a)ŋ【陽】の漢字の声母は喻母であり、4行目 yin【印】の漢字の声母は影母である。しかしながら、パスパ文字の字形には区別が見られず、ほぼ同一の文字を使用していると判断することができる。そこで、両者を区別するための数字は付さずに y で翻字する。



【参考文献（発行年順）】

羅振玉(1916)『隋唐以来官印集存』民国五年。

照那斯圖(1977)「元八思巴字篆書官印輯存」『文物資料叢刊 I』北京:文物出版社。

照那斯圖(1980)「八思巴字篆体字母研究」『中国語文』1980年第4期,307-309,269頁。

吉池孝一(2005)「パスパ文字の字母表」『KOTONOHA』37号,9-10頁。

吉池孝一(2009)「『書史会要』八思巴字字母表—音注悪と梵文 visarga—」『KOTONOHA』84号,13-16頁。

照那斯圖・薛磊(2011)『元国書官印彙釋』(中国蒙古学文庫)瀋陽市:遼寧民族出版社。

中村雅之主編(2014)『パスパ字漢語資料集覧』(KOTONOHA 単刊 8)愛知県:古代文字資料館。

吉池孝一(2015)「八思巴字官印集積—『隋唐以来官印集存』の湖陽等處武勇義兵百戸印—」『KOTONOHA』151号,25-26頁。

*本稿は平成25年・平成27年度科学研究費助成事業基盤研究(C)課題番号25370488「遼金元清文字資料の研究—電子データ化を中心として—」の助成による成果の一部である。

² 吉池孝一(2015)には両者を区別する可能性を示唆する記述があるが、なお検討を要する。